

平成23年4月の解説（週間天気予報）

【4月の天候状況】

上旬は、高気圧に覆われて晴れる日が多くなりましたが、北日本では旬の初めに前線が通過したため曇りや雨の所がありました。また、旬の終わりには低気圧や前線の影響で北日本から西日本にかけての広い範囲で雨となりました。中旬は、旬の前半までは高気圧に覆われて晴れる日が多くなりましたが、旬の後半は低気圧と高気圧が交互に通過し、気圧の谷の通過時には上空に強い寒気が流れ込んだため大気の状態が不安定となり、所々で雷が発生し突風の発生した所もありました。また、北日本から東・西日本の日本海側の山沿いでは雪の降った所もありました。下旬は、低気圧と高気圧が交互に通り天気は数日の周期で変わりましたが、気圧の谷の通過時には上空に強い寒気が流れ込み、大気の状態が不安定となって所々で雷を伴った激しい雨が降り、竜巻などの突風が発生しました。

月を通しての気温は西日本と沖縄・奄美でかなり低く、降水量は東日本の太平洋側から沖縄・奄美にかけて少なく、西日本ではかなり少なくなった地方もありました。日照時間は、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり多くなりました。

【4月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は、全国平均では例年^{（注）}より2ポイント高い72%でした。地方毎の適中率では、東・西日本の一部の地方を除き高く、沖縄地方では10ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、沖縄地方を除いて例年より0.4～0.5℃程度小さくなり、全国平均では0.4℃小さい2.5℃になりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差も、最高気温と同様に沖縄地方を除いて全国的に例年より0.2～0.4℃小さくなり、全国平均では0.2℃小さい2.0℃になりました。

^{（注）} 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【6月の週間天気予報の利用にあたって】

6月は梅雨前線が本州付近に数日以上停滞することが多く、梅雨前線付近の地方では曇りや雨の日が続くしばしば大雨が降ります。梅雨前線が少し北上すると、太平洋高気圧に覆われて蒸し暑くなり、少し南下するとオホーツク海高気圧からの冷たい北東の風が吹いて、太平洋側の地方を中心に梅雨寒で曇りがちの天気になります。

梅雨前線の位置のわずかな違いで天気が大きく変わりますが、梅雨前線の南北変動の予想は、日本全体を覆うような大きさの低気圧の移動の予想に比べて大変難しいものです。梅雨に週間天気予報を利用する際には、最新の天気予報で確認するようお願いします。